広島市長メッセージ

「国分寺市平和祈念式」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

１９４５年８月６日、一発の原子爆弾により、広島の街は一瞬にして焦土と化し、多くの尊い命が奪われました。そして、辛うじて生き残った被爆者も、社会的な差別や偏見、放射線による障害など心身に深い傷を負い、今なお様々な苦しみを抱えています。

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化や混迷を極める中東情勢を背景に、世界中で軍備増強の動きが加速し、各国の為政者の中では、自国を守るためには核兵器の保有もやむを得ないという考え方が強まりつつあります。こうした事態は、国際社会が過去の悲惨な歴史から得た教訓を無にすると同時に、これまで築き上げてきた平和構築のための枠組みを大きく揺るがすものです。

このような世界情勢だからこそ、被爆者が過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて紡ぎ出した「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」という、全人類の共存と繁栄を願う「ヒロシマの心」を受け止めた行動が、今求められています。核抑止力に依存し、自国のことのみに専念する安全保障政策を選択する為政者に政策転換を促すためにも、真に平和な世界を目指す私たちは決して諦めることなく、核兵器廃絶への思いを市民社会の総意にしていかなければなりません。

そのためには、私たちが、自分よりも他者の立場を重視するという気持ちを心に留めた上で、「平和文化」の振興につながる文化芸術活動やスポーツなどを通じた交流を活性化する、あるいは平和への思いを共有する場を積極的に創り出すなど、市民レベルの取組の輪を広げていくことが重要になります。そうした意味で、本年も皆様が「国分寺市平和祈念式」を開催され、世界恒久平和への願いが込められた「平和の灯」の下に集い、戦没者を追悼し、核兵器も戦争もない平和な世界の実現に向けた決意を新たにされることは誠に意義深く、その取組に対し深く敬意を表します。

本市は、世界の約８，６００の平和首長会議の加盟都市と共に、市民レベルでの連帯と行動の輪を国境を越えて広げ、武力の対極にある「平和文化」を世界中に根付かせることで、核抑止力に依存する為政者に、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障政策への転換を促していきます。皆様には、核兵器の廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

終わりに、「国分寺市平和祈念式」の御成功と御参会の皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和８年（2026年）８月１５日

広島市長　松井　一實